

佐渡においては、トキの野生復帰が順調に進む一方、佐渡における収容力や、トキは個体数の減少により遺伝的多様性が低い種であることを踏まえ、複数の地域個体群の形成が必要であり、本州等においてもトキと共生する里地づくりを推進することが重要。

本州等におけるトキと共生する里地づくりは、広範囲でのトキの定着と里地の保全活動の促進につながるよう、将来的なトキの野生復帰を目指し環境整備を進める地域(トキの野生復帰を目指す里地)に加えて、放鳥は行わないものの、将来的にトキが飛来し定着することを目指し環境整備を進める地域(トキとの共生を目指す里地)を募り、これらの地域間で交流を図りながら取組を進めることとしたい。

なお、本州等でのトキ放鳥の前提として、トキ野生復帰ロードマップ2025に基づき、実施可能性・要件・方法・手順等を慎重に検討・整理し、実施可否を判断する必要がある。

トキの野生復帰を目指す里地

<位置づけ>

将来的に再導入(放鳥)によりトキの野生復帰を目指し環境整備を進める地域。

本州等でトキを再導入(放鳥)する場合の候補地として、面積、取組体制、生息実績、取組方針等の要件を満たし、かつトキの野生復帰を目指す里地としてふさわしい地域を3地域程度選定し、環境省の技術的支援等を受けるとともに佐渡市や他の「トキの野生復帰を目指す里地」等と交流を図りながら取組を進める。

<要件>

- 地方公共団体が取組主体となり、複数の地方公共団体の場合は、連携が図られる見込みであること
- 面積(トキの生息地として一定の広さの水田、水辺及びその周辺の森林等の里地) 概ね15,000ha以上
- トキと共生する里地づくりに関する地域間の交流を図りつつ、地域ぐるみの取組として環境整備等を行う体制(関係機関との連携含む)が整備できる見込みであること
- 原則として、過去にトキの生息実績がある場所 等

トキとの共生を目指す里地

<位置づけ>

飛来したトキが生息できる環境整備を進める地域。

トキの放鳥は行わないものの、トキとの共生を目指すための取組体制、取組方針等の要件を満たす地域を選定し、環境省の技術的支援等を受けるとともに佐渡市や「トキの野生復帰を目指す里地」等と交流を図りながら取組を進める。

<要件>

- 地方公共団体が取組主体となり、複数の地方公共団体の場合は、連携が図られる見込みであること
- トキと共生する里地づくりに関する地域間の交流を図りつつ、地域ぐるみの取組として環境整備等を行う体制(関係機関との連携含む)が整備できる見込みであること 等

「トキと共生する里地づくり取組地域」への参加プロセス

意欲ある地方公共団体

トキの野生復帰を目指す場合

トキが生息できる環境整備を進める場合

「トキと共生する里地づくり」参加表明書提出

<参加表明書記載事項>

1. 取組主体となる地方公共団体、複数の地方公共団体等で連携する場合、連携についての調整状況
2. 取組範囲及びその対象範囲の考え方、自然環境
3. 環境整備等に取り組むに当たっての関係機関との連携を含めた体制、取組を進めるに当たっての役割分担
4. 地域住民を含めた地域ぐるみで取組を推進するための方針
5. 過去のトキの生息実績の有無
6. トキに関する知見・経験等の有無
7. トキとの共生を目指すに当たっての地域の課題と現状
8. 取組を通じて目指す地域の姿 等

<参加表明書記載事項>

左のうち、

1. 取組主体
3. 体制、役割分担
4. 地域ぐるみで取組を推進するための方針
7. 地域の課題と現状
8. 取組を通じて目指す地域の姿 等

トキと共生する里地づくり取組地域選定委員会

参加表明書を審査し、要件を満たし、
かつふさわしい地区を3地域程度選定
※現時点では、ふさわしい地域が3地域程度選定され、選定された地域において取組が適切に進捗する限りにおいて、当面、追加公募は想定していない。

----- 選定されなかった場合
(参加表明書提出主体の希望があれば) -----

参加表明書を確認し、要件を満たす地域を選定
※地域数は限定しない

※本州等におけるトキの飛来の増加等に伴い、周辺の地方公共団体の意欲の高まりがある場合には、追加公募する場合がある。

トキの野生復帰を目指す里地

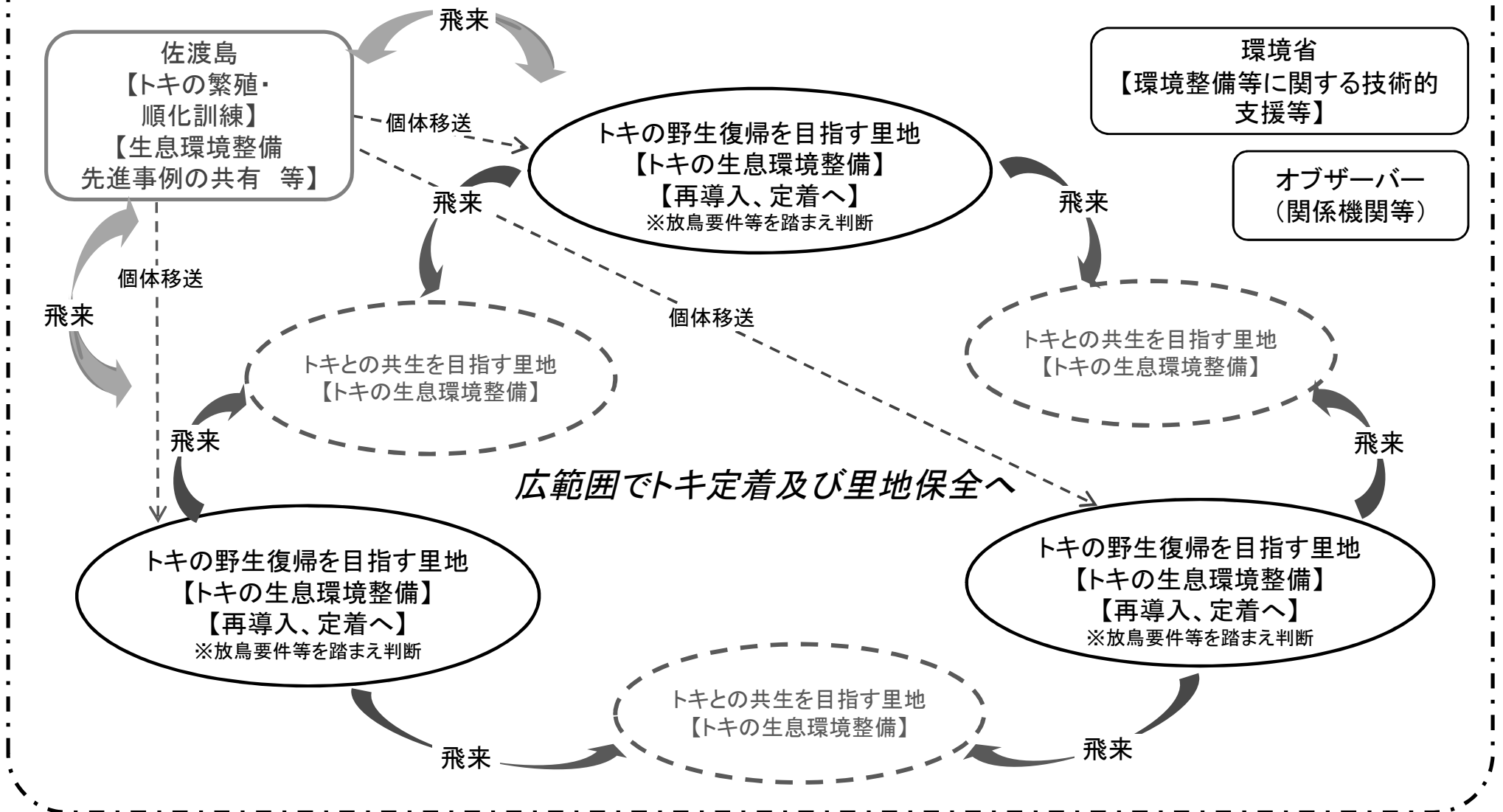
トキとの共生を目指す里地

※ 「トキの野生復帰を目指す里地」として参加表明した地方公共団体においても、審査結果により「トキとの共生を目指す里地」として選定することも想定。

本州等におけるトキと共生する里地づくり イメージ

トキと共生する里地づくりに関する地域間の交流の枠組み(案)

佐渡市の取組を参考に、里地づくりに関する情報共有を図りながら、連携して環境整備等の取組を推進



- 本州等のトキの野生復帰を目指す里地において将来的に再導入を実施した場合等に、周辺地域にトキが飛来する可能性が高まる。
- 周辺地域においてもトキが生息できる環境が整っていれば、本州等においてトキが定着する可能性が高まる。
- トキの野生復帰を目指す里地だけでなく、トキとの共生を目指す里地が連携して取組を進めることにより、将来的には広範囲でのトキの定着、里地保全につながり、個体間の交流等も期待できる可能性。